

# (福)はしま

羽島市・福祉

従業員数 / 男性34名 女性116名 計150名 ※令和7年10月現在

エクセレント  
POINT

- ①シフト調整等により専門学校で学びたい職員に配慮
- ②職員の要望を重視し、1カ月変形労働時間制を採用
- ③日数・回数を問わず利用できる感染症休暇を小学校6年生修了まで拡大



手術後一時的に身体的な負担の少ない業務の担当となった介護職員の奥田真子さん。「体力的、精神的にも安心して仕事を続けることができた」と話す。

## 公私にわたって手厚くサポート

社会福祉法人「はしま」では、職員のキャリアアップへの思いを法人一体となつて支えようと、職員が専門学校等に通学する場合は、授業のない時間に勤務できるようにシフトを調整したり、一時的に正職員から契約職員に変更して勉学の時間を十分に確保できるよう配慮。2019年度は2人が准看護師を目指して専門学校に通い、無事に卒業した。介護職員初任者研修は、介護職員だけでなく、その他職種の職員も法人の費用負担で受講することが可能。これらの配慮により、16年度の各種資格取得者は

5人だったが、20年度は15人上つて  
いる(いずれも延べ人数)。

体調を崩したり育児中の職員へも手厚く配慮。介護職員の奥田真子さんは17年に手術が必要な病気にかかり、診断書に基づいて必要な期間取得できる特別休暇、病気休暇を併せて取得し、1カ月間休んだが、その間の給料は全額受け取ることができた。

復帰後は身体的な負担の少ない業務に代わり、今では夜勤をこなせるまでに回復した。「体力的にも精神的にも安心して仕事を続けることができた」と話す。また、職員の要望に合わせてシフト勤務ができるよう1カ月変形労働時間制を採用。以前は子どもの急な病気の際に欠勤になっていた職員もいたが、事情に合わせて勤務時間を変更できるようになった。さらに、短時間勤務制度も導入し、希望者は遅刻や早退をした時間を別日に振替できる仕組みを取り入れている。これらの制度により、職員の状況に合わせて柔軟な働き方ができる環境が整った。

小さな子どもがいる生活相談員の花木裕一さんは、子どもの成長をしつ



子どもの行事にも積極的に参加しているという生活相談員の花木裕一さん。専門性が生かせる業務をしながら育児との両立が図れていることに充実感を得ているという。

かりと見守りたいこの思いから、看護休暇なども活用して子どもの健診や行事などに積極的に参加。「休みが取りやすくありがたい。自分の専門性も生かすことができていて満足している」と充実した様子を見せる。

他にも育児中の職員に対しては、職場内外での研修の資料を提供したり、育児の支援者となる家族とも状況に応じて面談を行ったりと、スムーズに復帰できるような支援もある。

また、健康経営にも積極的に取り組む。利用者と一緒に関員も体操に参加することで、仕事への集中力が高まり、時間外労働の抑制につながっている。